

新聞の切り抜き記事から



研究員 鶴岡 美宏

当センターの新聞切り抜きファイルから主な記事を抜粋して紹介します。

□第27分冊 (2015年9月11日～12月3日)

君津市議選 24人の顔ぶれ決定

26人が立候補した任期満了に伴う君津市議選は9月13日に投開票され、新議員24人の顔ぶれが決まった。(千葉日報9/15)

県推計2060年 人口188万人減

千葉県は15日、県人口の展望を示した「人口ビジョン」の案を公表し、県人口が現状のまま推移すると、2060年までの50年間で約188万人減少すると推計した。(読売9/16)

千葉県議会 「定数検討委」再開へ

県議会は18日、各派幹部による代表者会議を開き、一票の格差是正に向けた区割り見直しや定数削減を議論する「議員定数等検討委員会」を25日開会の9月定例県議会の会期中に再開することで合意した。(毎日9/19)

ヤード条例が「優秀政策」

今年4月、千葉県が全国に先駆けて施行した「ヤード適正化条例」が全国知事会から「優秀政策」として、5年ぶりに表彰された。(千葉日報9/24)

マイナンバー準備急ぐ 対策迫られる企業、自治体

10月から共通番号(マイナンバー)制度が始まり、国内に住む全員に12桁の番号が割り当てられ、来年から順次、利用が始まる。事務の効率化や行政手続きの利便性の向上、税・社会保険料の徴収強化が目的とされるが、県内でも制度への理解は深まっているとは言えない。企業は従業員の番号を管理する必要があり、対策に迫られている。

(読売9/26)

県議会一般質問 答弁要旨

鈴木陽介議員(民主党)は、農業生産工程管理

(GAP)の県の普及拡大戦略を聞いた。小倉農林水産部長は「GAP認証の取得は食を提供する事業者や消費者の信頼回復につながる」とした上で「より一層、認証制度の理解の促進を図りGAPへの推進に努める」と答弁した。(千葉日報10/7)

県議会一般質問 答弁要旨

民主党の野田剛彦議員は、小中学校へのヘリサインの整備などを質問した。森田知事は「災害時にヘリコプターで上空から被害状況を確認し、迅速な救助活動を行う上で、避難場所となる小中学校にヘリサインを整備することは大変有効」と答弁した。(千葉日報10/8)

八千代市の会議録改ざん問題

八千代市が定例部長会議の会議録を改ざんし開示した問題で、地方自治法百条に基づく同市議会の調査特別委員会(百条委)が市民注視の中で実質的に始動した。市政の透明性を確保するためには、真相究明へ向けた百条委による徹底した調査が求められそうだ。一方、再発防止策の策定など市は信頼回復を急がなければならない。

(千葉日報10/27)

袖ヶ浦市長に出口氏

袖ヶ浦市長選が10月25日、投開票され、無所属同士の一騎打ちの結果、現職の出口清氏(69)が元市議で自民推薦の福原孝彦氏(59)を破り、3選を果たした。(朝日10/26)

指定廃棄物 見えぬ妥結点

東京電力福島第一原発事故で発生した指定廃棄物の県内処理施設候補地として、環境省が千葉市中央区の東電火力発電所内の用地を選定してから半年が過ぎた。同省は千葉市や市議会に選定基準や経緯を説明し、市民説明会も5回開いたが十分

な理解は得られていない。

市は排出自治体での分散保管を念頭に置き、再検討を行うよう求めており、こう着状態が続いている。(読売11/7)

富津市が改革プラン最終案提示

危機的な財政状況に陥っている富津市は11月7日、有識者からなる経営改革会議の第8回会合を開き、経営改革プランの最終案を示した。

8月に実施した事業仕分けの結果などを反映させた「財政計画」を盛り込み、市の貯金にあたる財政調整基金を11億円以上積み立てるとした。

(千葉日報11/8)

大網白里市議選18人の顔ぶれ決まる

25人が立候補した任期満了に伴う大網白里市議選は11月8日に投開票され、新議員18人の顔ぶれが決まった。(千葉日報11/10)

我孫子市議24人決まる

任期満了に伴う我孫子市議選は11月15日に投開票が行われ、同日深夜までに24人の新議員が決まった。(千葉日報11/17)

共同火葬場、袖ヶ浦市参加へ

袖ヶ浦市は木更津、君津、富津の4市共同で木更津市の火葬場を立替使用することで基本合意することを決めた。市は40年来の懸案だった火葬場問題を4市共同建設で決着させたい考えだが、市議会や市民の間には、隣接の市原市の施設利用を求める声があり、論議になりそうだ。(朝日11/21)

地方創生 財政の壁

厳しい自治体財政が地方創生の壁になっている。日本経済新聞社が全国790市と東京23区の2014年度決算を調べた結果、地域経済を引っ張る政令指定都市が中小都市より財政余力に乏しい現実が浮かび上がった。(日経11/24)

習志野市 手話など利用促進へ 全国2番目

習志野市は、障害のある人のコミュニケーションを保障するため、手話などの利用を進める条例をつくり、開会中の市議会に提案した。議決を得られれば来年4月から施行する。(毎日12/1)

戦後70年 川鉄が来た

戦後、千葉の焼け野原に製鉄所がやってきた。

県の産業地図と社会を大きく変えたパイオニアの足跡をたどる。

①究極の地方創生

「今の言葉で言えば、究極の地方創生」。今年3月まで千葉市副市長を務めた藤代謙二は、川鉄誘致をそう表現する。それは産業界のみならず、県や市、地元住民にとって未知の道のりだった。

②条件のみ 逆転誘致

③高炉に火 町に熱気

④金屏風 間に合った

⑤社長と現場 心通う

⑥プールが真っ黒に

⑦経済成長への警鐘

⑧発展 岐路に立つ今 (朝日11/29~12/6)

銚子の挑戦

銚子市は雄大な自然を誇り、漁業や水産加工業、農業などで栄えてきたが、近年はかつての活気がなくなったと言われる。官民が直面する現実に向き合いながら知恵を絞り、活路の模索を続けている。

㊤ 財政難 市民に危機意識

㊦ 負担軽減へ ごみ減量課題

㊧ 地域資源でおもてなし (読売12/2~12/4)

県議会代表質問 答弁要旨

民主党の竹内圭司議員は、産業廃棄物の建設汚泥に脱水、固化などの処理を施した「再生土」による埋め立ての状況について尋ねた。

諸橋副知事は、県は再生土の埋め立て現場への立ち入り調査を昨年度から一部地域で実施しており、今年9月には県内全域で実施したと答弁。

(千葉日報12/2)

八千代市 教育委員が欠員3

八千代市の教育委員会委員(定数5)のうち、3人が2013年9月から今年9月にかけて任期満了で退任。10月からは、石井伸一教育委員長と加賀谷孝教育長の2人しかいない異例の事態に陥っている。(千葉日報12/3)

<以下次号へ>